就労事業として椎茸事業を行う福祉施設の財務分析
～　障がい者の就労を，ある事業所における運営を通して　～

社会福祉学専攻　安達　司

要　旨

本論の目的は，就労事業をおこなう福祉事業所において，利用者への支援・賃金（工賃）向上に寄与することである．そのためには，就労事業において黒字経営をおこなう必要がある．そもそも，黒字経営をおこなう必要としては，赤字経営であるならば福祉事業所に所属する利用者に不利益が生じるからである．職員は就労作業に追われ，利用者への支援へ多くの時間を割くことができない．また，資金に余裕がないのであるから，賃金・工賃も多く支給することができない．

また，黒字経営の必要性を考察する上で，根本的問いとして「障がい者の就労」について考察をおこなった．障がい者の就労について，「自立」・「欲求」・「ソーシャルワーク」の 3 つの観点から考察した結果，就労事業は赤字経営よりも黒字経営の方が，利用者の支援や賃金（工賃）向上について貢献できると考察した．

本論でおこなった研究として，就労事業所の経営状況を把握するために，北海道において椎茸事業を行う社会福祉法人の財務分析をおこなった．椎茸事業は障がい者の日中活動として多数の福祉施設でおこなわれている．しかし，収支状況を調査した結果，椎茸事業で黒字収支の事業所は，北海道きのこ生産者リストに登録されている社会福祉法人 15 事業所の中では，3 事業所しかなかった．率にすると 20%の事業所のみ黒字であり，他の 80%が赤字収支であった．その中でも安定した黒字経営を行っている事業所は一つのみであった．
そこで、黒字収支を出している a 事業所の事例を考察し，黒字経営の理由を探った．黒字経営の理由として、自法人で菌床製造が可能な菌床センターを保有していることによる材料費の少なさや、様々な設備投資をおこない経営努力していることが判明した。それらは、椎茸事業を行う他法人でも導入が可能である．また，これから椎茸事業を導入予定の福祉施設へ，黒字化への一つの提案をすることができた．